

秋 田 県 書 道 連 盟 会 報

第 131 号
秋 田 県 書 道 連 盟
事務局
秋 田 市 泉 菅 野 一 丁 目 18-1
三 浦 湯 沼 雅 彦 部
発 行 人 長 沼 雅 彦
編 集 広 報 部
(題 字 : 長 沼 雅 彦)
<https://akita-shoren.jp>



秋田県書道連盟 会長
佐 川 博 之

「伝わる言葉とは、相手が聞きたい言葉」。
仙台育英高校野球部監督の須江航さんの持論である。

生徒に接する際、自分の気持ちや経験から言葉を探すのではなく、普段から相手が何を考えているのかを想像しながら話を聞き、伝わりやすい言葉を見つけ出す。一人一人の人間関係を丹念に積み重ねている内に、生徒の心の扉が開くのだという。

「言葉で生徒を従わせるのは、教育ではなくて洗脳だ」と戒める。挫折を繰り返した自身の高校時代や、中学、高校での指導の失敗体験から学んだという。

説明するまでもないが、須江さんは一昨年の夏の甲子園で東北勢初の優勝を成し遂げ、昨年決勝に進んだ名指導者。それと同時に「青春って、すごく密なので」「人生は敗者復活戦」など、インタビューを受けたときに繰り返す言葉が多くの共感を生み、「言葉の魔術師」などと形容

される。

「大勢が集まる場で話を伝える場面はいろいろあるが、相手の心が開いていなければ、せいぜい二割しか伝わらない。だから普段からの聞く力が大事」と、傾聴力を重んじる。

教育現場と実社会の違いはあれども、情報を伝えることを生業にしている私たち新聞社の人間にとつて、須江さん流の「伝わる言葉」の極意は誠に魅力的だ。

そんな須江さんを招き、ことし四月に秋田、能代、大仙市の三か所で講演会を開いた。フロアとの質疑応答に時間を割くのが須江さん流だった。やはりここでも質問者の話にじっくりと耳を傾け、伝わりやすい言葉を探し出している姿が印象的だった。

毎年、選手が入れ替わる中で、モチベーションを保ち、チームにまとまりを持たせるために、言葉の共有も大事にしている。グラウンドにスローガンを大きく掲げること自体は珍しく



秋田市のミルハスで講演する須江航さん

はないが、須江さん流なのはその年のチームのスタイルに合わせ、「走姿顕心」「真剣勝負」など、毎年言葉を変えている点にある。徹底し

た観察、傾聴、対話から、伝わる言葉が選ばれる。相手が聞きたい言葉を伝える点では、最近、書道パフォーマンズで各所から引く張りだこの大曲高校書道部の活動も似てはいまいか。

今年二月には、能登半島地震で被災した日本航空高校石川の書道部を励まそうと、「贈ル言葉」と題した作品を動画にして贈った。「家族 友達 毎日会える悦びに」「またね」が言える幸せに気づいた」と書き出し、最後は「大丈夫 前を向いて 笑う門には福来る」と結んでいた。部活動を休止中の石川の部員たちには、交流ある書道仲間からの愛のこもった「伝わる言葉」は心に染みただ。



後輩が寄せた書のごとく、「疾風怒濤」の走りを見せた鈴木優花さん

パリ五輪の開幕前には書道部の1年生部員たちが、女子マラソンに初めて出場するOBの鈴木優花選手に応援の書をしたためた。「疾風怒濤 パリの空の下がんばれ!」。一文字一文字、祈りを込めて書き上げ、道路に面した書道室の窓に張り出したという。

後輩たちのそんな思いが届いたのだろう。鈴木選手は五輪史上もつとも難しいとされるコースで見事なまでに躍動した。圧巻は中盤の急こう配で見せた走り、ケニアやエチオピア勢に交じって先頭集団にくらいつく様は、まさに「疾風怒濤」の勢이었다。

世の中を広く見渡して、じっと耳を傾けてみる。声なき声も想像しながら。それを筆の力で表してみる。県内の書家たちが発するそんな「伝わる言葉」は、私たちの日常生活のさまざまなシーンに、もつとあつていい。

- 1、開会
- 2、物故者への黙禱
- 3、会長あいさつ
- 4、理事長あいさつ
- 5、議長選出
- 6、議事録署名選出
- 7、議事
- 8、議長解任
- 9、閉会

次 第

本年度定期総会が左記の通り開催され、52名が出席しました。
議長には吉井雅子さん、議事録署名には伊藤清子さん、横山由希さんが選出されました。

令和6年度定期総会

● 日時 令和6年4月29日(月・祝日)
11時～12時
● 会場 イヤタカ(秋田市)



議長に選出された吉井雅子さん



長沼理事長よりあいさつ



佐川会長よりあいさつ



会計監査の報告をする小松清峯さん



資料に目を通す出席者の皆様



和やかに行われた懇親会

令和6年度 秋田県書道連盟 事業計画

	総務部	研修部	展覧会部	広報部 (ITを含む)	広告部	
4月	監査会 4月14日(日) 10時 正副部長会議 4月20日(土) 13時半 理事・常任理事会 (イヤタカ) 4月29日(月・祝) 10時 総会 同日 11時 懇親会 同日 12時				会報発行・県書道連盟展に向けた広告依頼活動(総務部)	
5月	県芸文協定期総会 5月24日(金)					
6月						
7月						
8月	筆供養・懇親会 8月25日(日) 神事：15時半 (日吉八幡神社) 懇親会：16時 (パークホテル)		県書道連盟展 (アトリオン) 8月23日(金)～26日(月)			連盟ホームページの管理運営(連盟の紹介、組織図、行事カレンダーの作成、各種行事の参加者募集、会報のインターネット公開、等々)
9月	書初め準備会議 (県立武道館) 9月29日(日) 13時半			会報発行(131号)		
10月		実技研修会 10月6日(日) 14時 懇親会 17時半				
11月						
12月			県芸文協会議 (ミルハス) 12月			
1月	新春書初め席書大会 (県立武道館) 1月12日(日) 書初め展覧会 (さきがけホール) 1月30日(木)～2月2日(日) 授与式 2月2日(日)	新年研修会 1月26日(日) 14時 懇親会 17時	新春小品書展 (さきがけホール) 1月30日(木)～2月2日(日) 書初め展覧会 (さきがけホール) 1月30日(木)～2月2日(日)		書初め大会と新春小品書展に向けた広告依頼活動(広告部)	
2月						
3月			秀作美術展 (県芸文協主催) 3月6日(木)～9日(日)	会報発行(132号)		

令和6年度 収支予算

自 令和6年4月1日
至 令和7年3月31日

収入総額 2,447,000円
支出総額 2,447,000円
差引残額 0円

収入の部

(単位：円)

費 目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
前年度繰越金	458,710	276,240	△ 182,470	
会費	630,000	630,000	0	本年度分 @3,000円*210名
寄付金	116,000	110,000	△ 6,000	常任理事・理事 @2,000円*55名
事業収入	840,000	930,000	90,000	広告料、連盟展出品料 各事業収入
基金繰入金	0	500,000	500,000	HP更新費用として基金から繰入
雑収入	290	760	470	利息等
合 計	2,045,000	2,447,000	402,000	

支出の部

(単位：円)

費 目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
事務費	270,000	260,000	△ 10,000	
消耗品費	31,000	31,000	0	文具品、出納簿、コピー、諸費
通信費	90,000	80,000	△ 10,000	郵送料、切手、案内ハガキ
会議費	80,000	80,000	0	役員会議会場費等
交通費	50,000	50,000	0	役員会議旅費
諸費	19,000	19,000	0	振り込み手数料等
事業費	1,643,000	2,108,000	465,000	
総務部費	40,000	35,000	△ 5,000	事務打合せ会場費等
研修部費	150,000	150,000	0	研修会、新年研修会、講師謝礼等
展覧会部費	253,000	253,000	0	県書道連盟展等
広報部費	208,000	640,000	432,000	HP更新費 500,000 HP管理費 40,000 会報送付・活動諸費用 100,000
広告部費	65,000	70,000	5,000	活動諸費
連盟展事業費	190,000	190,000	0	連盟展会場費、目録、ハガキ
書初め大会費	77,000	100,000	23,000	書初め席書大会補助金
印刷出版費	560,000	600,000	40,000	会報印刷費、諸会合資料
筆塚供養費	50,000	50,000	0	供養謝儀、参加者(子供)記念品代
活性化委員会費	50,000	20,000	△ 30,000	通信費、会場費等
負担金	30,000	30,000	0	県芸文協へ 30,000円
表彰費	5,000	5,000	0	
慶弔費	20,000	20,000	0	
雑費	3,000	3,000	0	
予備費	74,000	21,000	△ 53,000	
合 計	2,045,000	2,447,000	402,000	

令和6年度 第16回 秋田県新春書初め席書大会 予算

席書大会 令和7年1月12日(日)
展覧会日 令和7年1月30日(木)～2月2日(日)

収入総額 996,000円
支出総額 996,000円
差引残額 0円

収入の部

(単位：円)

費 目	前年度予算額	今年度予算額	増 減	備 考
広告協賛金	600,000	600,000	0	協賛社40件 1件15,000円
参加費	320,000	275,000	△ 45,000	大学以下 計 350人 一般 80人 350人× 500円=175,000円 100人× 1,000円=100,000円
薄茶席売上	22,000	20,000	△ 2,000	200円×100枚
雑収入	1,000	1,000	0	
連盟補助金	77,000	100,000	23,000	
合 計	1,020,000	996,000	△ 24,000	

支出の部

(単位：円)

費 目	前年度予算額	今年度予算額	増 減	備 考
魁広告掲載費	385,000	385,000	0	魁新聞紙上掲載
オープニング行事委託費	40,000	50,000	10,000	
お雑煮等委託費	200,000	200,000	0	1,000食分の材料費、その他経費
薄茶席委託費	50,000	50,000	0	茶席委託
華道連盟委託費	40,000	40,000	0	生け花展示委託
書道パフォーマンス委託費	60,000	40,000	△ 20,000	用紙代、及びその他経費
司会委託費	10,000	20,000	10,000	
通信費	50,000	10,000	△ 40,000	関係先への文書郵送料
消耗品費	80,000	100,000	20,000	用紙、文具等 会場整備用品
印刷製本費	15,000	15,000	0	インク代等
雑費	2,000	10,000	8,000	振り込み手数料等
表彰費	20,000	20,000	0	
筆耕費	40,000	30,000	△ 10,000	賞状筆耕料
人件費	28,000	26,000	△ 2,000	
合 計	1,020,000	996,000	△ 24,000	

第63回秋田県書道連盟展特集

8月23日(金)～26日(月)

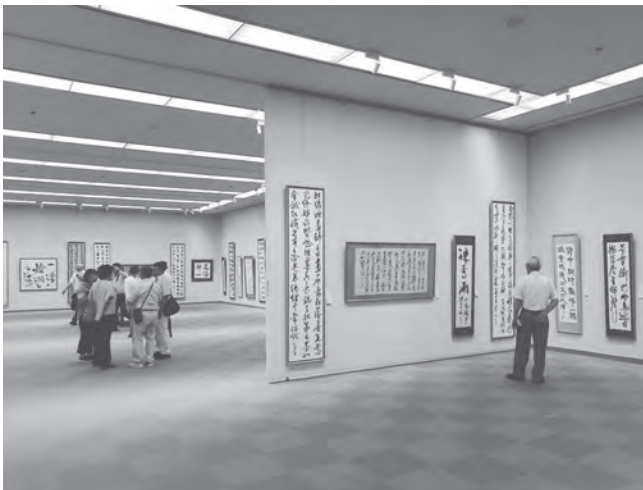
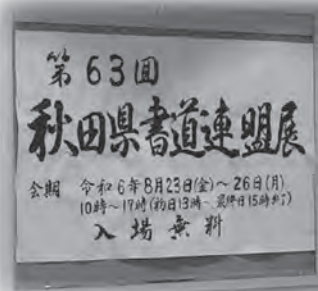
初日 午後1時～午後5時

期間中 午前10時～午後5時

最終日 午前10時～午後3時

アトリオン2階美術展示ホール

初日の午前9時から搬入・展示作業が行われ、連盟会員99点の作品が展示されました。



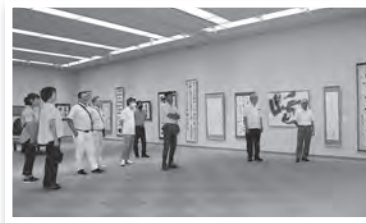
祝賀会

25日(日)午後4時～、秋田パークホテルにて、書道連盟展祝賀会が行われました。



互評会

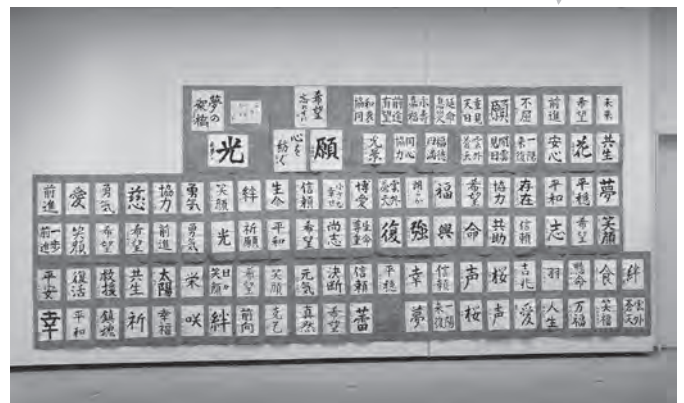
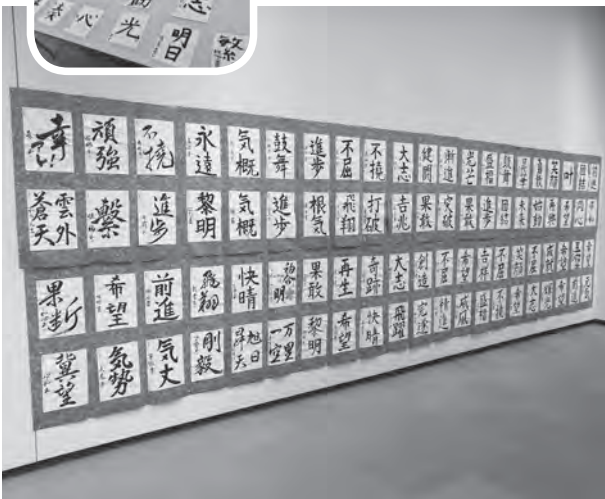
25日(日)午後1時～、今後の創作活動の指針となるよう、集まった皆さんで作品鑑賞を行いました。



震災復興応援 メッセージコーナー

東日本大震災以降、秋田での国民文化祭(第29回国民文化祭・あきた2014)が平成26年に開催されました。時間の経過とともに風化しがちな被災地への思いを、書のもつメッセージ性を生かし、復興応援したいという趣旨ではじまりました。以降、秋田県書道連盟展では毎年通常展に加えて継続してきました。

連盟会員から8点、高校生から237点、計245点が展示されました。



●「復興への願いを筆に込めて」

東日本大震災から13年が経過しましたが、被災地の傷跡は今でも完全に癒えることなく、また、近年本県でも自然災害が相次いで発生しています。そのような中で復興応援と防災について改めて考える機会とするため、秋田北高校と聖霊学園高校の書道の授業選択者を中心に出品を募ったところ、外国からの留学生を含む83名の生徒たちが出品に協力してくれました。

限られた書作時間ではありませんが、生徒たちはそれぞれ丁寧に言葉を選び、復興への願いを筆に込めて、真摯に取り組みました。

(秋田北高校・聖霊学園高校)

指導者 後藤武之さん

●「言葉と書に思いを乗せて」

今年は部員十二名で参加、書の表現の工夫で復興を応援する気持ちを伝えようということになりました。短い言葉や漢字一字を選び、学んできた顔真卿や造像記、張遷碑、空海などの古典を基に、文字から元氣や力強さ、安心感が得られるよう表現を工夫しました。仮名で表現された藤原清輔朝臣の歌には、もし長く生きていければ、今のつらいこともまた懐かしく思い出されるだろうという歌の意味があり選んだようです。

相手を思い言葉を選ぶ。表現を考え思いを伝える。たくさんの願いが届き、復興が進みますことをお祈りいたします。

(能代松陽高校 指導者 池端千佳さん)

●「臨書のその先へ」

大曲高校芸術科の書道Ⅰでは1学期に唐時代の楷書「九成宮醴泉銘」の鑑賞と臨書を行いました。臨書を終えた次のステップとして、創作の第一歩である做書(ほうしょ)作品に取り組みました。この作品は書道連盟展に出品するため、生徒たちは自ら応援メッセージにふさわしい漢字を選びました。多くの生徒にとって、自分で書く内容を決めるのは初めての経験であったようです。この做書作品の制作を通じて、「臨書の大切さ」と「創作の楽しさ」を学びました。また、フランスからの短期留学生もこの授業に参加し作品を制作したので出品しました。

(大曲高校 指導者 竹村天祐さん)

●「無力ですが…」

13年の月日が経っても傷跡が残る東日本大震災の被災地の皆様に、無力な私達がどんな言葉を贈ることができるのか…。

「立派な言葉を上手に書く」ことより「思いを伝える」ということを大切にしたいと考え、拙い作品ですが参加させていただきました。

又、新年元日には能登地方、8月には九州、そして関東等々全国的に揺れ不安が続く中で、改めて防災を学び、共に支え合いたいと話合いうことができました。

(由利高校 指導者 会津千寿子さん)

●「願い」

私は今年初めて東日本大震災復興応援メッセージ展に出品しました。

私が3歳の時に東日本大震災があったため、震災当時の記憶は全くありません。しかし、小学校や中学校の道徳の時間に、震災を経験した人の声を聞いたり、新聞の記事などを読んで読むことで、宮城県を中心とする多くの市や町が被害に遭ったことを知りました。

メッセージ展に出品するにあたり、どのような言葉を書こうかとても迷いましたが、最終的に「人生」という言葉を選びました。震災にあった方々の辛い過去を悼み、これから先の私たちの明るい未来を願っています。

(御所野学院高校 2年 小野寺 由絆さん)

●「若い世代へ繋ぐ」

今回は、「書道Ⅱ」選択者が、心を込めて書いた写経を出品しました。

「3. 11、書文化への影響を知り、考えよう」という授業をあの日から毎年行っています。

「書道Ⅰ」で雄勝町、「書道Ⅱ」で女川町や大川小学校の当時から現在までを学びました。私自身、現地へ行き、震災遺構を目にしたことで色々考えさせられるものがありました。撮ってきた写真を見せると、涙を浮かべる生徒もいました。

今の高校生は、当時幼稚園児。記憶もまちまちです。同じ東北人として、忘れてはいけない大震災を、書を通じて考えるきっかけになればと思います。

(秋田商業高校 指導者 長沢薫さん)

筆供養神事 ～使い終えた愛用の筆に感謝して～

8月25日（日）、午後3時30分から日吉八幡神社にて開催されました。

2001年に連盟が建立した筆塚に、玉串を捧げた後、筆を納めました。文房四宝の一つ、筆に感謝し、書の上達を願うことを目的に毎年行っております。

式次第

開式の辞
修祓しゅぼつ
祝詞奏上のりとあが
玉串奉奠たまぐしほうてん
筆を筆塚へ
挨拶
閉式の辞



筆塚



宮司 番場千里さん



参加賞のお土産を手にすることも達



長沼理事長より子ども達へあいさつ

参加者	
前田祥穂先生教室	吉田 翔 二井田こども園
菅原紫雲先生教室（白峰書院）	川原 百華 牛島小学校 2年
こさかゆづき 八橋小学校 2年	藤原 和喜 浜田小学校 3年
小坂白悠先生教室（白悠書院）	菅原 翔 四ツ小屋小学校 4年
佐藤 帆音 秋田大学附属小学校 3年	千葉 昊 大住小学校 4年
石塚 紗英 勝平小学校 3年	千葉 翠 大住小学校 6年
石塚 茅乃 旭南小学校 3年	泉 菜月 牛島小学校 6年
佐藤 彩良 秋田大学附属小学校 6年	吉田 葵 牛島小学校 6年
石塚 桐吾 旭南小学校 6年	川原 千鶴 牛島小学校 6年
鎌田 夏帆 秋田工業高校 3年	江積 菜太郎 大住小学校 6年
竹村和佳先生教室	菅原 優凜 大住小学校 6年
渡辺 千夢 港北小学校 6年	米屋 愛希 追分小学校 6年
濱村 さき 港北小学校 6年	



代表 千葉翠さん



代表 石塚桐吾くん

参加しての感想

● 僕は学校で書写の授業が始まったのをきっかけに小三より書道を習い始めました。筆供養に初めて参加したことで、より書道に対する向上心、道具に対する愛着を感じました。これからも努力を重ね頑張りたいです。

（石塚 桐吾
旭南小学校 6年）

これまでの主な展覧会(連盟会員)

第66回 秋田県美術展覧会(県展)

▼写真は、秋田魁新報社提供

6月21日(金)～26日(水)
にぎわい交流館A U 2階展示ホール



「感謝」

この度の受賞、とても光栄に
存じ身の引き締まる思いでござ
います。ありがとうございますま
した。

また、皆様からあたたかなお祝いのお言葉を
頂戴致しましたこと有り難く、今後の糧として
精進して参ります。

今回、書作に向い始めてから、途中ひと月半
も全く紙を出すことなく過ごし、再度筆は執っ
たものの苦心しました。

まずは初心に立ち返り、歌に込めた想いを感
じ表現をと紙に向かう。その想いにほんの少し
でも近づけるよう念じましたが、なかなか思い
通りにはいきません。受賞に感謝申し上げます。

◆特賞 (秋田魁新報社賞)

前田 祥穂 (秋田市) 「白秋の歌」



◆奨励賞

伊藤 勁章 (由利本荘市) 「二元好問詩」



「指摘への感謝」

ここ数年は多字数作品に挑戦している。昨年
も運よく奨励賞を頂いたが、「もつと奥行きがあ
ればなあ」との指摘を受けた。いつも足算を行っ
ていたが、今年作品は敢えて引算にし、奥行き表
現が少しでも出来ればとの思いで筆を走らせた。
新聞発表後、多くの先生方からお祝いの言葉を
頂戴した。この紙面を借りて感謝申し上げます。

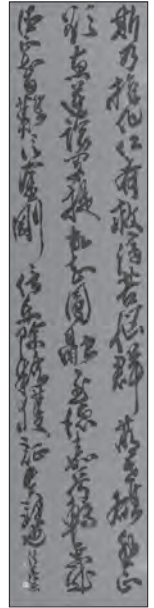
松橋 聖泉 (秋田市) 「皇甫濂詩」



「県展 奨励賞を受賞して」

この度は思いもかけず奨励賞を頂き、ただた
だ驚いております。これもご指導いただいた小松
璐秋先生はじめ、一緒に切磋琢磨している書友の
おかげと、感謝の気持ちでいっぱいです。毎回、
もつと時間をかけて書きたかったと反省しきり
ですが、今後は、筆を持てることに感謝し、書に
対して真摯に向き合って精進していきたいと思っ
ております。

小松 清峯 (大仙市) 「円融至徳」

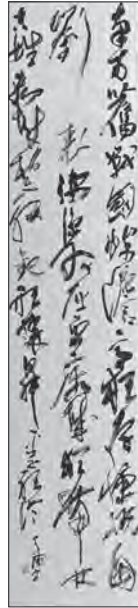


「感謝」

この度は奨励賞を賜り、心より御礼申し上げます。運営委員の先生方、書道連盟の皆様、秋田墨滴窓友会の書友の皆様深く感謝いたします。

なかなか理想の書には届きませんが、楽しみながらも研鑽を積み、より充実した作品づくりに精進してまいりたいと思います。

竹村 天祐 (大仙市) 「戦乱の国」



「へっへと」

この度、秋田県美術展書道部門で奨励賞を受賞することができ、大変光栄に思い感謝の気持ちでいっぱいです。この作品は五言律詩40字ですので、少し字を大きくして「へっへ」と書きました。

これからも自分の表現力をさらに磨き、独自の書を目指して精進していきたいと思えます。本当にありがとうございます。

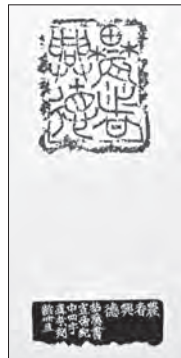
齊藤 暁苑 (大仙市) 「徐定夫詩」



「喜びと感謝を胸に」

この度は、奨励賞をいただき、ありがとうございます。限られた時間の中での書作で、なかなか納得のいく作品を書き上げることができず、思い悩む日々ですが、この喜びを糧に決して驕ることなく、心技体が一体となった書表現を目指して今以上に精進して参ります。

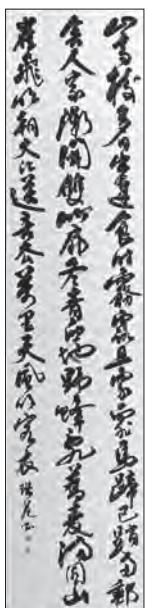
佐藤 直哉 (にかほ市) 「農者興徳」



「判で押したような…」

戦国の古陶文(陶器の銘文)は、范(ハン)。製陶で用いられる印判)や古璽で押捺し焼成したもので、同時代の戦国古璽や封泥にも通じる魅力があり、篆刻には有益な史料だと思。本作は、古陶文の温雅な造形や、特有の質感を参考に制作してみた。それほど悪くもないが、結局は「判で押したような」マンネリに終始していった。

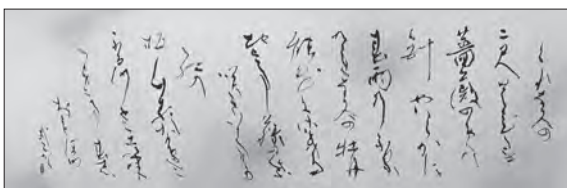
佐藤 珠苑 (北秋田市) 「東流道中」



「奨励賞を受賞して」

入賞できたのはびっくりで、とても嬉しく思います。書き込むほどに、ドツボにハマっては抜け出せなくなる…その繰り返しですが、今回は、一旦決まった作品を見返して物足りなさを感じ、ダメ元で思い切って書いた最後の作品でした。なかなか成長しませんが、諦めずに自分の線を出せるよう、今後も精進したいと思います。

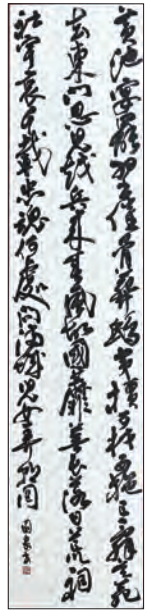
佐藤 哉子 (横手市) 「正岡子規の歌」



「くれなるの」

今回は、正岡子規の歌から、すべて「くれなるの」から始まる歌を三首選びました。「薔薇」「牡丹」「藤」「梅」「土筆」を漢字で書くことを決めていました。仮名作品において、漢字をどのように調和させるかを考えて書作しています。これからも読みやすい仮名作品を追求していきたいと思えます。

千葉 園泉 (大仙市) 「陳鳴鶴詩」

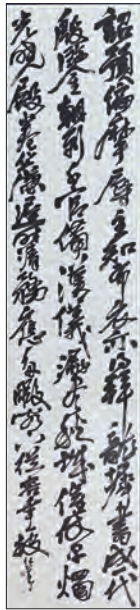


「県展奨励賞を受賞して」

この度、県展にて奨励賞をいただくことが出来たことは、本当に嬉しいことでした。これも、窓友会の奥山会長はじめ、小松清峯先生や千葉瑠真先生、会員の皆様の厳しくも的確で細やかなご指摘とご指導のおかげだと感謝しております。また、石田寶龍先生にも良い道具を丁寧にご扱うこと書作においても大切であることを改めて教わりました。

限られた時間の中での制作になりますが、さらに精進し書作に励んで参りたいと思っております。

佐藤紀公子 (美郷町) 「高青邱詩」



「お陰様で」

お声がけくださる先生方、何かと相談に乗ってくださる先輩方、信頼と実績の表具店さん、そして多少(っ)家のことを疎かにしても目を瞑ってくれている家族。毎回綱渡り状態ながらも出品し続けられるのは、いろいろな方々のご協力があつてこそだとも思います。感謝の気持ちを忘れずに、今後も精進して参ります。

◆ 入選

- 佐々木 青爛 (秋田市)
- 嶋野 青城 (秋田市)
- 長谷川 流石 (秋田市)
- 川田 直政 (秋田市)
- 齊藤 英知 (秋田市)
- 筒井 敏秋 (秋田市)
- 藤本 佳幸 (秋田市)
- 成田 暁翠 (秋田市)
- 石川 抱鶴 (秋田市)
- 佐藤 聖賢 (秋田市)
- 一ノ関 清山 (秋田市)
- 小坂 白悠 (秋田市)
- 古田 柯香 (秋田市)
- 大山 美泉 (秋田市)
- 大黒 禾苑 (秋田市)
- 鎌田 江葉 (秋田市)
- 田村 芳汀 (秋田市)
- 長沢 薫 (秋田市)
- 恵比原 琇琴 (秋田市)
- 角田 萩瑛 (秋田市)
- 宇佐美 桂月 (秋田市)
- 加賀谷 里萩 (秋田市)
- 池端 千佳 (能代市)

- 成田 昌子 (男鹿市)
- 竹村 和佳 (男鹿市)
- 伊藤 晃蘭 (五城目町)
- 深井 春祥 (潟上市)
- 佐藤 穎 (潟上市)
- 千田 寿山 (井川町)
- 佐藤 晃山 (井川町)
- 津島 一美 (由利本荘市)
- 熊谷 貞子 (由利本荘市)

- 岡本 真貴子 (由利本荘市)
- 奥山 朱鳳 (大仙市)
- 齊藤 孝快 (大仙市)
- 伊藤 貴道 (大仙市)
- 山口 顕正 (仙北市)
- 八柳 竹耀 (仙北市)
- 鈴木 昭子 (横手市)
- 佐々木 采嘉 (横手市)
- 高橋 暘雲 (湯沢市)



美術表装一式

掛軸、和額、屏風、襖

中山表具店

〒011-0917 秋田市飯島道東二丁目4番10号

TEL 018 (846) 8496



由利本荘市芸術文化賞を受賞して

植 田 清 寛



この度は思いがけない賞を受賞させて頂き、驚きで一杯です。この賞は亡き師後藤竹清先生、書友、知人そして家族や書道連盟の先生方のご指導ご鞭撻のおかげと思っております。

亡き師後藤先生は中央書壇との繋がりを大切にされました。私は所属する白峰社、清芽会の書友が各展覧会等に出品し、また、活躍していることで、今の立場に立たせてもらっております。そのお陰で上京する機会も格段に増加しました。そして、自分の勉強は言うまでもなく、中央書壇の先生方との交流を大切な機会と思い、今までやってきました。そのような事が受賞の対象になったのでしょうか。

小学四年生から読み書き・そろばんの時代、習字に通い、現在まで六十一年の書道人生になりました。こんなに長く続けるとは本人も、そして誰もが想像しなかつたでしょう。

多くの人達に支えられ、応援を感じながら、これからも精進していききたいと思えます。



総合書道用品販売

- ◎展覧会・企画・展示
- ◎〈表具〉〈額装〉〈軸装〉
- ◎各種展覧会搬入搬出承ります
- ◎文房四宝・低価格にて提供しております

株式会社 **クラヤ**

〒010-0952 秋田市山王新町4-5
 TEL 018-863-6001 FAX 018-863-6004
 ホームページアドレス <http://kuraya-shodou.com>
 メールアドレス kuraya@seagreen.ocn.ne.jp

那 **墨痕あざやか** 波

あなたの筆勢を伝える筆。
 「書」の心をうつす墨、紙。

那波紙店

〒010-0921
 秋田市大町四丁目3-35
 ☎ 018-823-4311 (代)

第40回 読売書法展

東北展 10月23日(水)～27日(日)
山形美術館・山形県芸文美術館

秀逸

一ノ関 清山(秋田市) 漢字部門
佐々木 汪心(秋田市) 漢字部門
長 沢 薫(秋田市) 漢字部門
佐藤 珠苑(北秋田市) 漢字部門
奥山 朱鳳(大仙市) 調和体部門

会友出品

田村 芳汀(秋田市) 漢字部門
古田 柯香(秋田市) 漢字部門
千葉 園泉(大仙市) 漢字部門
浅野 玉韻(秋田市) かな部門
松塚 汪泉(秋田市) 調和体部門
加賀谷 里萩(能代市) 調和体部門

入選

佐々木 嶂芳(秋田市) 漢字部門
佐藤 聖賢(秋田市) 漢字部門

鈴木 涛春(男鹿市) 漢字部門
深井 春祥(潟上市) 漢字部門
野村 玉泉(秋田市) 調和体部門

第75回 毎日書道展

東北山形展 10月16日(水)～20日(日)
山形美術館

会員賞

岡本 真貴子(由利本荘市) 近代詩文

毎日賞

堀井 直子(由利本荘市) 近代詩文

秀作賞

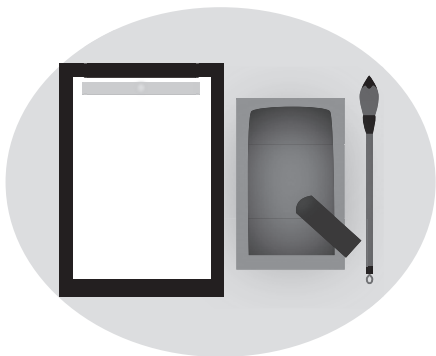
藤田 勢子(横手市) 漢字I類

佳作賞

菅原 松香(秋田市) 漢字I類
竹内 美穂(にかほ市) 大字
大淵 麻弥(秋田市) 近代詩文
佐々木 幸子(由利本荘市) 近代詩文

入選

竹村 和佳(男鹿市) 漢字I類
大黒 禾苑(秋田市) 漢字I類
保坂 省峰(秋田市) 漢字I類
佐藤 晃山(井川町) 漢字II類
大黒 禾苑(秋田市) 漢字II類
小田島 和翠(横手市) 漢字II類
柿沼 希和子(横手市) 漢字II類
寺田 敦子(横手市) 漢字II類
藤田 勢子(横手市) 漢字II類
大淵 麻弥(秋田市) 大字
柿崎 真翠(秋田市) 大字
成田 暁翠(秋田市) 大字
遠藤 芙美子(由利本荘市) 大字
堀井 直子(由利本荘市) 大字
栗林 千春(横手市) 大字



詩と書の芸術性

— 佐々木久春詩集の出版を
記念して、討論と談話 —

秋田県新春書
初め席書大会等
で大変お世話に
なっております
佐々木久春先生
が、この度詩集
を出版されまし
た。

それを記念い
たしまして、令
和6年9月15日
(日) 午後1時
半〜3時、あき
た文学資料館展示室にて、佐々木久春先生（北
五星主宰）と長沼雅彦先生（秋田県書道連盟理
事長）が、詩とは、書とは、その芸術性をめぐり、
討論と談話が行われ、多くの方々が熱心に耳を
傾けました。

本連盟有志による佐々木久春先生詩作品展示
も、令和6年9月12日（木）〜18日（水）、あ
きた文学資料館展にて展示されました。各書作
品制作者による作品説明も行われました。



詩集を出版された佐々木久春先生



書と文芸の関わりについて講演する長沼理事長



詩とは書とは、その芸術性をめぐり対談



多くの方々が参加しました

各書作品制作者による作品説明



長沼理事長



後藤武之さん



黒木天簫さん



阿部清楓さん



石井竹華さん



長沢薫さん



会津千寿子さん



竹村天祐さん



伊藤清子さん

第2回書友展

(R6.7.20~22 秋田県立美術館)



魚に関係することわざの書と釣魚の写真展

(R6.8.1~9.30 井川町農村環境改善センター)



佐藤晃山作品展

(R6.4.3~5.31 井川町農村環境改善センター)



第39回書壇院秋田連盟展

(R6.8.30~9.2 アトリオン)



第31回瀾の会小品展

(R6.4.12~14 アトリオン)



第15回秋田草心会書展

(R6.8.31~9.2 アトリオン)



第55回六葉會書展

(R6.4.12~15 アトリオン)



第5回秋田の書展

(R6.9.14~16 アトリオン)



第9回秋田藍筍会展

(R6.5.17~19 アトリオン)



北畠龍門氏を偲ぶ

秋田県書道連盟理事長 長 沼 雅 彦



北畠龍門氏

北畠龍門氏がこの七月二十八日に天国に旅立った。ここから哀悼の意を捧げるとともにご冥福をお祈りする。

言うまでもなく氏に

は連盟に大変な貢献をしていただいた。副理事長としては、書初めの準備、運営に関して自ら先頭に立って事を運び、有能な仲間を連れてきてはそれぞれの方向に仕事をしていた。連盟五十周年ではそれまでの連盟の歴史をきちんと整理し、言わば連盟史を確立し、記念作品集に掲載された。

長い教職のご経験と校長としての学校経営の観点から、連盟を組織として意義あるものとすべく、常に心にあるようにうかがわれた。書は時には驚くほど斬新な思い切りのよいものを発表され、いかにも自由に楽しんで制作されている様子がその作品に表れていた。なにか肝要なことを述べた後、ちよつといたずらっぽくてれ笑いをみせて後姿をみせた場面が忘れられない。合掌



秋田県書道連盟創立60周年記念展にて



秋田県書道連盟創立60周年記念展祝賀会にて

情報社会に育つ

株式会社 塚田美術印刷

本社工場 / 〒010-0921 秋田市大町一丁目6番6号

TEL 018(823)5551(代)

FAX018(823)5553

URL : <http://www.akita21.com/tsukada/>
E-mail : tsukabi@cna.ne.jp

秋田県唯一の

月刊教育書道誌



～おかげ様で創刊71周年～

書友社

〒010-0954 秋田市山王沼田町11-11

TEL 018-862-3484 FAX 018-862-3485

MAIL shoyusha-akita@outlook.jp



今後開催予定の主な連盟関係行事

実技研修会

令和6年10月6日(日)

協働大町ビル

日 程

- 13:30 - 14:00 受付
- 14:00 - 14:10 開会式
- 14:15 - 16:15 実技(休憩時間含む)
- 16:20 - 16:30 閉会式
- 17:30 - 懇親会

秋田県新春書初め席書大会

令和7年1月12日(日)

県立武道館

新年研修会

令和7年1月26日(日)

秋田県新春書初め席書大会展覧会

新春小品書展

令和7年1月30日(木) ~ 2月2日(日)

さきがけホール

秋田県秀作美術展(芸術文化協会主催)

令和7年3月6日(木) ~ 9日(日)

今後開催予定の主な展覧会

第42回秋田墨滴窓友会書道展

令和6年11月1日(金) ~ 3日(日)

花火伝統文化継承資料館 はなび・アム

第19回耽墨会

令和6年11月9日(土) ~ 10日(日)

横手交流センター Y²プラザ

第23回日本書学研究会秋田一先会書展

令和6年11月9日(土) ~ 11日(月)

アトリオン

第47回瀾の会書展

令和7年1月17日(金) ~ 1月19日(日)

アトリオン

総務部・広報部に届いている展覧会を掲載しております。ご了承ください。

物故者

- 北 畠 龍 門 (羽後町)
- 山 口 美代子 (秋田市)



会員募集

日頃から本会の運営につきましては、格別のご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

本会は、より多くの書道を愛好する皆様にご活躍と研修の場、作品発表の場、会員相互の情報交換の場などとしていただくため活動しております。

会員は随時募集しておりますので、事務局までお問い合わせ下さい。

事務局 秋田市泉菅野一丁目18-1
三浦 湯舟

編集後記

この夏は、パリオリンピック・パラリンピックを寝不足覚悟で観戦した人も多いのではないのでしょうか。国を背負ったの想像を絶するプレッシャーは計り知れないものがあります。そんな中、スノーボードやブレイキン等、十代がベストを尽くすべく伸び伸びと果敢に挑戦する姿に心奪われました。ライバルが成功したら共に喜びを分かち合う、たとえライバルが失敗したとしてもそのチャレンジ精神にリスベクトする。相手が失敗することを願いたくない、同じ競技を愛するファミリイだと、その姿にぐっとくるものがありました。

ユニバーサル放送やユニバーサル書体も浸透しつつあります。多くの人が情報を正確に把握できるよう、「わかりやすい」「間違えにくい」「読みやすい」この3つの観点が、ユニバーサル書体。テレビのリモコン等や新聞にも使用されています。優しい社会の中には、文字の力も大きいと感じます。

(広報部一同)

●お待たせしました。秋田県書道連盟HP、間もなくリニューアル完了です。乞うご期待!! ●

<https://akita-shoren.jp>